



残時間

分

秒

収入  
投入

子どもたちの感性豊かな提言をまちづくりに

# 子ども模擬議会

今年で12回目となる「子ども模擬議会」が、7月6日(金)、市議会本会議場で開催されました。

市内20の小学校から、子どもたちの代表として6年生20人が「1日議員」となり、中川清市長ら市執行部に「温暖化防止」、「土浦駅前開発」、「観光資源の活用」など小学生の視点から、将来の土浦について鋭い質問を投げかけました。

今号では、子ども議員の質問と市の答弁の概要(要旨を抜粋)を紹介します。





# 市政運営

□税金

# 消防・防災

□防災対策

□火災対策



上大津東小  
濱田 佳緒里さん  
市民税はどのような  
ことに使われている  
のですか。

市に納めていただく税金を「市税」といいます。「市税」は最も大切な収入で、平成19年度の予算では、239億4000万円を見込んでおり、収入全体の56%になります。

市では、この市税に市の施設を使った方々からいただく使用料や国・県からの補助金などを加えた資金で、福祉や教育をはじめ、道路や公園、下水道の整備、ごみの処理や消防車の購入など、さまざまな事業に取り組んでいます。

皆さんの身近なところでは、学校内への不審者対策や緊急時の連絡用として、すべての小学校にインターホンを設置します。また、心臓に電気ショックを与えて心臓の働きを元に戻す機械、「AED」を7月中には、皆さんの学校にも配備をする予定です。

さらに、快適に学校生活が送れるよう、校舎や体育館の建て替え、通学路などの整備をはじめ、パソコンの購入など、計画的に教育環境の充実に努めています。これからも、市税については、市民の皆さんのことを第一に考えて、「日本一住みやすいまち」の実現を目指して、大切に、そして公平に使っていききたいと考えています。

(副市長)



穴塚小  
宮崎 奎丞さん  
防災マップと災害時  
の避難場所について  
教えてください。

1点目の「災害の種類に応じた防災マップは作成されているのか。また、それはどのような内容か」については、市では、先日、洪水避難地図(洪水ハザードマップ)を皆さんの家庭に配布しました。この地図は、河川が氾濫した場合に備えて、地域住民の皆さんがすばやく安全に避難し、被害を最小限におさえることを目的とした水害時の避難マップです。また、本年度中に、「揺れやすさマップ」と「地域の危険度マップ」の2種類の「地震防災マップ」を作成する予定です。

これらのマップは、強い地震が起きても壊れにくい建物にしようするため、参考となるよう作られるものです。

次に、2点目の「学校は、災害時の避難所となっているが、学校生活に影響はあるのか。また、お手伝いすることがあるのか」については、実際に、避難所となるのは体育館ですが、教室や校庭なども一時的に使えなくなることがあると思いますので、皆さんのご協力をお願いします。

また、お手伝いについては、避難所をいつも清潔にしておくために、清掃のお手伝いをお願いしたいと思います。

(総務部長)



山ノ荘小  
根本 宏美さん  
火事における市の取  
り組みについて教え  
てください。

消防署と消防団では、火災を防ぐ対策として、消防車による巡回を繰り返し行い市民の皆さんに防火をアピールしたり、春と秋の全国火災予防週間には、各家庭やデパートなどを回り火事を起こさないよう注意を呼びかけています。また、大切な命を守るための住宅用火災警報器の取り付けを指導しています。

火災は、昨年の1年間に40件発生しましたが、消防本部では、消防車ができるだけ早く到着できるように消防署をバランすべく配置し、消防職員も24時間交替で待機しています。

消防署、分署、出張所が合わせて6カ所あり、消防車両はポンプ車11台のほかはしご車2台、化学車1台、救助工作車1台、救急車6台をそれぞれの署所に分けて配置しています。また、消防団が38カ所あり、消防ポンプ車などを配置しています。

消防職員は176人、消防団員は536人おり、職員と団員が力を合わせ皆さんの地域を守っています。

火事の多くは、ふとした気のゆるみや、不注意から発生しますので、火を使うときは火から目と心を離さないように家族そろってご協力をお願いします。

(消防長)



# 市民生活

- 水道事業
- 不審者対策

# 環境

- 温暖化防止



都和小  
牧野 千明さん  
市が使う1日の水道量は。また、土浦は水不足の問題は起らないのですか。

市の水道使用量は、平成18年度で1日に一番多く使われたのは、7月14日の4万9311m<sup>3</sup>で、一番少なかったのは1月2日の3万3622m<sup>3</sup>です。

水源は霞ヶ浦の水で、土浦地区では、大岩田にある県企業局の浄水場できれいな水にしてから市の3つの配水場に送られ、皆さんの家庭や会社、お店などに送っています。

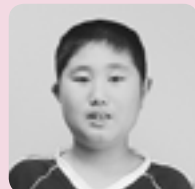
また、新治地区については、本郷にある県の新治浄水場から大畑にある新治浄・配水場に送水され、そこで、井戸からくみ上げた水とブレンドされ各家庭に送られています。

テレビのニュースなどで、全国的に水不足が心配されていますが、私たちが住んでいる所は、霞ヶ浦を水源としていますので、取水制限などは過去に一度もありませんでした。

市の水道管の延長は約800kmほどあり、古くなると管に亀裂が入ったりして漏水が発生することがあるため、交換する時期にきているものは計画的に交換を進めています。

牧野さんが心配していることがないように、これから水道事業の運営にあたっていきます。

(建設部長)



右柳小  
根本 純太さん  
市の不審者対策について教えてください。

市では、安心で安全な住みやすい地域社会の実現を目指すため、平成16年7月に「土浦市安心で安全なまちづくり条例」を作りました。

不審者対策については、平成17年4月から青色の回転灯を装備した「青色防犯パトロール車」を導入し、現在2台で下校時間帯などのパトロールを強化し見守りを行っています。平成16年度から各町内会で自主防犯組織を結成してもらっために説明会を行い、6月現在で173町内会のうち155町内会で組織され県内トップの結成率になっています。

また、保育園、幼稚園、小・中学校などを対象とした防犯教室や身近な防犯や交通安全などの情報を掲載した「地域安全情報」を毎月発行し、各学校や公民館・町内会で活用しています。

さらに、小・中学生全員に防犯ブザーの配布や、町内会に対して防犯灯設置などの補助を行うなど防犯に対する環境整備の支援もしています。

市では、学校、PTA、警察署、防犯団体、町内会と連携し「日本一住みやすいまちの実現」に努めますが根本さんも防犯活動は、自分からという気持ちをもって楽しい小学校生活を送ってください。

(市長公室長)



土浦小  
高井 瑞希さん  
温暖化防止のために市ではどのような教育をしているのですか。

地球温暖化の原因となる温室効果ガスの大部分は二酸化炭素であり、温暖化が進むと、将来的に人々の生活に大きな影響を及ぼすことが心配されています。

土浦市役所では、平成13年度に温室効果ガス削減についての計画をつくり温暖化防止に取り組んでおり、最近はISO14001の取得やヒマワリの種を原料としたバイオディーゼル燃料の使用などの温暖化防止の活動を行い、環境の大切さを皆さんに理解してもらえよう努めています。

環境教育については、小学校では総合的な学習の時間に勉強しているほか、自然に触れながらの体験学習を行っています。中学校では宿泊体験学習の中で詳しく学習する学校もあり、高等学校では授業以外でも自主的活動として、環境調査や研究をしている学校もあります。

一般の方に対しては、環境保全を目的に協議会を組織し活動を進め、昨年は協議会主体により第1回環境展を開催しました。そのほか、市職員による出前講座や広報紙でのお知らせも行っています。

高井さんも環境にやさしい取り組みを行って、すばらしい地球の環境を守っていただきたいと思います。

(市長)



# 環 境

□霞ヶ浦対策

□資源活用

# 保 健 福 祉

□福祉活動



中村小 壁谷 すみれさん  
**霞ヶ浦をきれいにするために、市はどのような対策を考えていますか。**

霞ヶ浦は、昔は水もきれいで多くの人が水遊びなどを楽しんでいましたが、生活排水や工場排水などにより現在のようになっています。

霞ヶ浦水質浄化に向けて、汚れの原因の3割を占める家庭からの排水をきれいにするために、市では次の3つの対策に力を入れています。

1つ目は、「公共下水道」の整備で、家庭からの排水を処理場できれいにして霞ヶ浦に放流するものです。

2つ目は、「農村地域での下水道」で、農村地域の排水を、公共下水道と同じように処理してから川に流すものです。

3つ目は、家の庭などに設置し、窒素やリンを処理できる「高度処理型合併処理浄化槽」の普及です。

そのほか、工場などの排水を調査することや、植物を栽培して川の水をきれいにするなどを進めることも、親子湖上研修会や水の探検隊など水環境の学習も行っています。さらには、市民の皆さんによる清掃作業や学習会、イベントなどの活動も活発に行われています。

市では、このような対策をこれからも続けていき、みんなで協力して泳げる霞ヶ浦にしていきたいと考えています。

(市民生活部長)



土浦第二小 榎本 寛大さん  
**市のごみ、リサイクルなどへの取り組みについて教えてください。**

家庭から出るごみ「家庭系のごみ」は、市で収集し処理をしますが、会社、お店、学校などから出るごみ「事業系のごみ」は、自分の責任で適正に処理を行うことになるため、ごみの回収方法が違います。

また、皆さんが回収した学校給食の牛乳パックは、再生工場でトイレットペーパーやノートなどに再生され、平成18年度に回収された牛乳パックおよそ20tは、約10万個のトイレットペーパーに生まれ変わりました。

皆さんが集めた牛乳パックのおかげで、紙製品の原料となる、多くの木を切り倒さずに済みました。

残菜は、その一部を家畜の餌として再利用しており、ビニールなどは、現在、専門の施設で処理されていますが、将来は、燃料としての活用も検討されています。

このように、皆さんが取り組んでいるごみの分別により、リサイクルが推進され、地球環境を守ることにとても役立っています。

榎本さんも「もったいない」という気持ちで物を大切にし、買い物をするときにレジ袋をもらわないなど、身近なことから始めてください。

(市民生活部長)



斗利出小 山岸 晋也さん  
**車椅子の必要な人のために、プルトップやベルマークを集めて寄付しては。**

市では、子どもからお年寄りまで、誰もが住み慣れた地域の中で、お互いに支え合い、健康に生きる喜びと希望を持って、安全・快適かつ便利に暮らせるまちづくりを推進しようとして取り組んでいます。

市内の小・中学校における福祉活動については、「赤い羽根」などの募金活動や書き損じはがき、古切手、1円玉などの回収活動など何らかの福祉活動に全小・中学校で取り組んでおり、高齢者やハンディキャップのある方、病気で困っている方のためなどに使われています。

ベルマークについては、20の小・中学校で集められており、児童生徒の皆さんが使う一輪車、竹馬、ボール、デジタルカメラなどに換えられ活用されているようです。山岸さんが考えているように、高齢者や病气などで困っている方のためにベルマーク活動を活用することは素晴らしいことです。

斗利出小学校が、市内の小学校に呼びかけ、協力しながらさらに活動の輪を広げてほしいと思います。福祉活動がより充実し、さらに拡充していくよう山岸さんにはその取り組みのリーダーとして活躍されることを期待しています。

(教育次長)



# 保健福祉

□福祉計画

# 産 業

□土浦全国花火競技大会



都和南小  
平野 はるかさん  
誰もが安心して暮らせるために、市の福祉計画を教えてください。

市では、自分たちが住み慣れた地域の中で、お年寄りや障害のある方も含めたすべての方が、社会の一員として市民活動に参加し、交流できる環境づくりを進めるため、「人にやさしいまちづくり」という計画を作り、身体の不自由な方には出入り口などの段差をなくすようにスロープを設置し、目の不自由な方には、点字ブロックなどを整備しています。

例えば、平野さんが通う都和南小学校でも、3年前に、玄関の段差をなくしたり、車椅子の方でも利用ができる、トイレの改善工事を行いました。

さらに、もう一点、大切なことがあります。それは、困っている方がいたときに、素直に手を差し伸べる思いやりと、優しい気持ち、それからほんの少しの勇氣です。

相手の立場に立つて手を差し伸べることは、お年寄りや身体の不自由な方にとって、人の心の温かみや、心強さを感じるものです。

市では、これからも皆さんと協力して、他人に対する思いやりと、優しさをはぐくみ・育てるとともに、誰もが住み慣れた地域で生活し、自由に行動できるように、施設整備を進めていきます。

(保健福祉部長)



東小  
村岡 亜紀さん  
花火大会の観覧席と  
敷席の改善について  
教えてください。

土浦全国花火競技大会は、毎年70万人を超える方が訪れており、敷席周辺は観客が集中し大変危険なため、事故防止対策として会場への入場規制などを行っている状況です。

一人でも多くの方にご覧いただけるよう、毎年、敷席を増やしてきましたが、限られたスペースのためこれ以上増やすことは難しいことから、昨年は「花火大会観覧マップ」を作成し、敷席以外でもゆくりと安全に花火が楽しめる無料観覧場所の案内に取り組みしました。

敷席の値段を安くすることについては、花火師への支払いや大会のPR経費、交通規制や安全確保、仮設トイレの設置など多くの費用が必要になることから難しいと考えています。

また、駐車場については、市内31か所に5160台分を用意し、一部を除き無料で開放しています。今後も無料駐車場を増やしていきたいと考えていますが、できるだけ電車やバスなどの利用を呼びかけていきたいと思っています。

これからも、土浦警察署などと連携して安全確保に努め、皆さんに楽しんでいただける、日本一の花火大会にしていきたいです。

(産業部長)



乙戸小  
森下 渉さん  
花火大会終了後のごみはどのよう  
に片付けているのですか。

土浦全国花火競技大会は日本を代表する花火大会で、全国各地から大勢の方が集まりますが、残念なことに大会終了後には、大量のごみが残されています。残されたごみは、大会関係者のほか、土浦第一中学校や土浦小学校の皆さん、自衛隊や地元企業・団体の皆さんなど、約1700人の清掃ボランティアの方々と、地元町内会の皆さんのご協力をいただいで、清掃し片付けています。

昨年集められたごみの量は約2万3000kgでした。ここ数年ごみの量は減少傾向にあります。これは、毎年ごみの持ち帰りを呼びかけ、多くの方が清掃に協力してくれているためだと思います。そのほか、昨年はパンフレットを有料にしたり、お弁当の器をお土産として持ち帰れるようにするなどごみを減らす工夫を行いました。

花火大会のごみを減らすためには、花火を見に来た方一人ひとりが、普段からごみを減らす意識を持ち、マナーを守り、ごみの持ち帰りを実行していただくのが最も大切な事だと思います。

これからも、きれいな土浦をPRし、日本一のすばらしい花火大会をご覧ください、ただよう努力していきます。

(産業部長)



# 産 業

- 観光対策
- 農業振興

# 都 市 整 備

- 歩道整備



下高津小  
齊田 悠平さん  
**土浦のまちがにぎやかさを取り戻すための観光対策を教えてください。**

土浦は、昔から県南の中心都市として発展してきましたが、自家用車の普及などによって、町中のにぎわいが以前に比べ少なくなっただよに感じられます。そのため市では、日本一の花火大会を開催したり、日本に1機しかないツエッペリンNT号を土浦へ呼んでくる活動を行うほか、新しい取り組みとして、まちかど蔵を中心に地元商店街と協力して雑祭りイベントを行ったり、桜まつりに合わせて桜比へ展覧会を開催し、その際、土浦駅、TXつくば駅とまちかど蔵を結び、バスなどの運行を行うなど、町中のにぎわいを取り戻すためのさまざまな取り組みを行っています。

また、土浦の観光事業を総合的・計画的に推進するために、今年と来年の2年間で、市の観光基本計画を作ることになっています。計画づくりにあたっては、住む方にとっては、「住んでいて良かった」、「これから住み続けたい」と思えるように、また、訪れる方にとっては、「また訪れたい」、「こんなまちに住んでみたい」と思える、魅力的な観光基本計画として、大勢の方に土浦に来ていただけるよう努力し、まちの活性化を図りたいと考えています。

(市長)



上大津西小  
山岸 一樹さん  
**農業を体験する機会を増やし、農業人口の減少を防ぐ工夫を教えてください。**

土浦は農業も盛んで、特にれんこんは日本一の産地です。ほかにも、切り花のグラジオラスや果物の栽培も多く、新治地区では、そばや柿・梨などが特産となっています。

農作物の生産農家は、平成7年の2162戸が、平成17年には1644戸へと10年間に約24%も減っています。

農家の方の年齢も高齢化し、平成17年には60歳以上の方が49%を占めています。このため市では、農業を続けていける農家などに、作物を作れない方の水田や畑を使って作物を作ってもらうことになっています。

農業は、食糧を生産する大事な仕事です。このため、農業の大切さを知ってもらうために、小・中学校では、野菜づくりや梨の栽培、牛の飼育など学校ごとに農業体験学習に取り組んでいます。

最近では地球温暖化防止のため、農作物が食糧のほか燃料にも活用できる点が注目されています。

皆さんの中から一人でも多く、農業に興味を持ち、おいしいお米、れんこん、野菜や牛乳などを作り、土浦の農業を支えていく人が出てきてくれることを願っています。

(収入役)



藤沢小  
村野 健人さん  
**登下校中に何度も危険な思いをしているので、ガードレールを造ってください。**

市内を通っている道路には、大きく分けて国道、県道、そして市道と3つあり、それぞれ国土交通省、県、市が管理しています。

市が管理している道路は6773本で、全部の長さは1496kmあります。これは土浦から青森を往復できるくらいの距離になります。

現在、市では、車と歩行者が安心して利用できるよう、毎年、計画的に道路を新しく造ったり、直したりしているところです。

村野さんが質問した場所については、藤沢十字路から南側の関口商店脇の、横断歩道のある付近かと思いますが、この場所は、道幅が5mと狭く、ガードレールが設置されているものの、道路下の側溝へ歩行者が落ちないようにするためのものであって、通行する車から歩行者を守るガードレールではなく、皆さんにも、大変ご不便をかけていると思います。

そういったことから、交通安全上、通学路にガードレールや歩道を設置することは重要で必要なことですので、道路を管理している県に、市からも早く整備するようお願いしていきたいと考えています。

(建設部長)



# 都市整備

- 公園管理
- 景観整備
- 土浦駅前開発



大岩田小  
高木 由乃さん  
水郷公園の自然を守るためにどんな努力をしているのか。

水郷公園は、日本で2番目に大きい湖である霞ヶ浦という自然を背景に、利用する皆さんが自然に親しみながら休養したり、交流を深めたりする、人間と自然が調和した公園づくりを目指して整備が行ってきました。

この公園となっている場所ですが、もととは田んぼで、昭和47年から整備工事が始まって、現在のような公園として出来上がりました。

公園の面積は全部で32・3haで、公園内には、体育館、プール、国民宿舎、水生植物園、オランダ型風車、イベント広場、ネイチャーセンター、テニスコートなどがあります。さらに、3万本のチューリップをはじめ、マリーゴールドやパンジーなど四季の草花を植えて、いつでも誰もが楽しんでいただけるように努めています。

こうしたことから、市内の利用者はかなりでなく市外からの利用者も多く年間約60万人が訪れています。

公園の自然を守るため、市では毎日の清掃、さらに、大きくなつた樹木の手入れや害虫の消毒などを行い、すべり台などの遊具を安全に安心して利用できるよう、点検なども行なっています。

(都市整備部長)



神立小  
長谷川 遥香さん  
土浦のきれいな街並みの再生について、どのような計画があるのか。

土浦のきれいな街並みの再生に向けての取り組みとしては、旧水戸街道の中通りを中心とした「歴史的町並み景観整備事業」があります。この事業は、中通りを江戸時代の雰囲気のある通りに再現し、にぎわいを取り戻そうとする事業です。中通りには、江戸時代から栄えた商家や蔵が多く残っていたので、市では、まちかど蔵「大徳」や「野村」を修理して、観光客を増やす活動を進めてきました。

また、現在は中通りの電線地中化の工事を進めており、完成すると電線や電柱がなくなり、歩道には石畳が敷かれ、歴史を感じさせる通りになります。一方、中通りの整備にあわせて、通りに面したお店を、きれいな街並みにつくり直していく話し合いも、お店の方々の協力を得て進めています。

お店の建物の形や色をどのようにしていけば、きれいな街並みに再生できるか、また、「のれん」や「すだれ」をつくるなどちよっとした工夫で、歴史を感じさせる雰囲気に変えるための方法なども話し合っています。

これらの整備が進めば、きっと街並みがきれいになり、楽しい街にやみかえると考えています。

(都市整備部長)



菅谷小  
草野 紀乃さん  
土浦駅前の都市開発はどのような計画で進められているのか。

市では、現在、土浦駅西口の駅前北側(駅前北地区)で、面積約1haの市街地再開発事業を進めています。

駅前北地区再開発事業は、町中へ人を呼び戻し、活力あふれるにぎわいのあるまちにするため取り組む事業であり、図書館などの市の施設が入る建物「施設棟」とマンション「住宅棟」の2つのビルを建設するものです。

「施設棟」は、地上6階で、1階と2階には駐車場、駐輪場を計画しています。3階には、市の3つの施設を計画しています。1つは、情報センターで、市のさまざまな情報の発信拠点となる施設です。2つ目は、美術品展示室です。3つ目は、市の総合窓口となる中央出張所です。4階と5階には、新しい図書館を計画しています。

「住宅棟」は、地上19階で、住宅の戸数は約1200戸の計画です。

これからの事業予定ですが、平成19年度は、工事のために必要な図面作りを行い、平成20・21年度は工事、平成22年3月の完成を目指しています。

約3年後の図書館完成のときには、草野さんも中学生、ぜひとも活用していただきたいと思います。

(市長)





# 教育・文化

- 文化財保護
- 国際交流



真鍋小 狩野 諭史さん  
**真鍋小の桜の管理状況とPRについて教えてください。**

真鍋小学校のサクラは、明治40年2月に小学校の校舎が新築移転した記念に植えられたものです。当時は、校庭の南の端に植えましたが、校庭を南側へ広げたため、現在の位置に5本が残ったものです。このサクラを大切に残すため、昭和31年5月25日、県指定文化財の天然記念物「真鍋のサクラ」として指定を受けました。

市では、サクラの枝が折れたり、倒れたりするのを防ぐため鉄骨の支えをしたり、樹木医によって消毒や枯れ枝を取り除いたり、サクラの木の根の勢いを良くするための作業など、十分に注意をしながら手入れを行なっています。

真鍋のサクラの紹介については、市や土浦市観光協会のホームページ、観光パンフレットなどで、サクラのすばらしさを伝えたり、サクラの名所を巡るイベントを企画したりして、たくさんの人たちに知ってもらおうよう努めています。

今後、百歳を過ぎたサクラをいたわりの心で大切に保護していきます。  
 児童の皆さんも、いつまでも心の故郷としてのサクラを守るためには、何ができるかを6年生が中心となり学校活動の中で、話し合いをしてみてください。

(市長)



荒川沖小 浅見 紘考さん  
**土浦市には姉妹都市はあるのですか。その都市と交流する機会はあるのですか。**

土浦市が友好交流を行っている都市は、ドイツのフリードリッヒスハーフェン市(以下、フリードリ市)です。

フリードリ市はドイツ南部にあり人口が5万7000人の都市です。商業と工業が発達し、ボーデン湖岸に位置しておりスイスなどと国境を接した、風景が美しく、気候の温暖な町です。

土浦市とのかわりりは、昭和4年にフリードリ市で造られた飛行船ツエッペリン伯号がシベリア大陸を横断し、土浦に降り立ったことから始まりました。

このような歴史的な出来事やお互いの町が良く似ていることから、平成6年に「友好促進に貢献する官言書」を結びました。

土浦市が「かすみがうらマラソン」に選手を招待したり、フリードリ市から招待を受けて中学生や市民訪問団などを派遣したり、また土浦の写真をフリードリ市に送ったりして交流を重ねています。

土浦市とフリードリ市は、遠くて簡単に行き来はできませんが、今はインターネットがありますので、学校同士でメールのやり取りができないか、検討していますので、実現したらぜひ参加してください。

(教育長)

## 議長



後半議長  
 山岸 晋也さん



前半議長  
 根本 宏美さん

子ども模擬議会の議長として、市内の小学校20校の友だちと、土浦市長をはじめ、市の執行部の皆さんのご協力により、無事に大役を努めることができました。

私たちは、社会科の授業などでは、議会の仕組みや役割について学習することになりますが、実際に議会がどのように進められているのかを、子ども模擬議会という形で体験することができました。

議会では、住みよい土浦市をつくるために、さまざまな意見を出し合っており、討議されているということがよくわかりました。

これからも、「人と環境にやさしいまちづくり」の推進に向けて、頑張ってください。

私たちも、今回の貴重な体験を大切にして、土浦市の発展のために協力していきたいと思っております。



## 答 弁 者 紹 介



市長  
なかがわ きよし  
中川 清



副市長  
たきがき ひろすき  
瀧ヶ崎 洋之



収入役  
ごとう ひでまさ  
五頭 英明



教育長  
とみなが よしふみ  
富永 善文



市長公室長  
いちかわ のぶ  
市川 昇



総務部長  
どい ふみお  
土肥 文夫



市民生活部長  
いしがみ しんいち  
石神 進一



保健福祉部長  
こいけ としお  
小貫 俊男



産業部長  
いしげ かずみ  
石毛 一美



建設部長  
あおやま りょういち  
青山 良夫



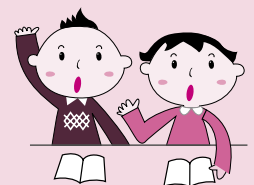
都市整備部長  
こわたり ぜんぺい  
古渡 善平



教育次長  
くぼ てるひろ  
久保庭 照雄

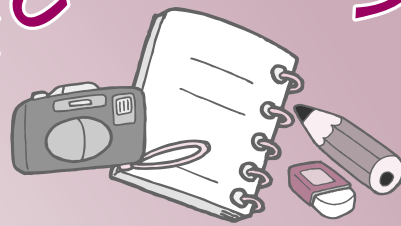


消防長  
なかがわ しんぺい  
中川 新衛



平成19年  
子ども模擬議会

# 子ども記者クラブ



Kids Reporter



## ★ 取材活動の流れ ★

### I. 取材のポイントを学ぶ

現役の新聞記者から、取材をする上での注意事項やコツをアドバイスされました。子どもたちは皆真剣に聞き入っていた様子でした。

### II. 議場での取材

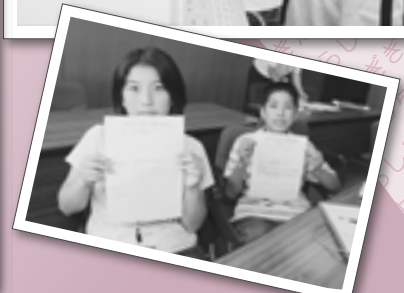
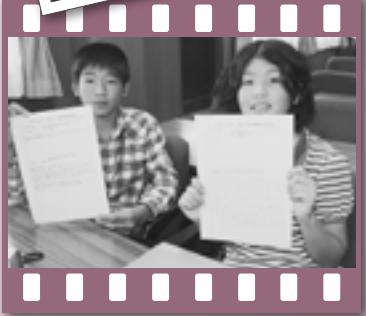
いよいよ議場の記者席へ。沈静な空気、少し緊張気味の子ども記者たちでしたが、いざ議会が始まると一生懸命取材をしていました。

### III. 取材したものを記事にする

取材したメモの中から、要点を拾い出したり、同じ学校の記者同士で相談しながら、質問と答弁を用紙にまとめていました。

### IV. 学校へ記事を送る

記事が出来上がったら、自分の学校へファクスで送信。2人で力を合わせて作った記事に、子どもたちは達成感を感じていたようです。





子ども模擬議会での取材活動を通して「見る・聞く・書く・表現する力」を養うことを目的として発足された「子ども記者クラブ」は、今年で5回目となりました。子ども記者たちは現役の新聞記者を講師に迎え、メモの取り方、カメラ撮影のポイント、注意事項などを学んだ後、実際に議場の記者席で自分たちの学校の質問や答弁の内容を、カメラを片手に熱心に取材していました。作成した記事は、すぐに学校へファクス送信しました。

初めて体験した取材活動から、「伝えることの大切さ・難しさ」など、さまざまなことを学ぶことができたのではないのでしょうか。

## 平成19年子ども記者クラブメンバー

市長との記念撮影



- ① 鈴木
- ② 櫻井
- ③ 貴大さん(大岩田小)
- ④ 藤井
- ⑤ 志帆さん(大岩田小)
- ⑥ 菅谷
- ⑦ 章太さん(土浦小)
- ⑧ 高橋
- ⑨ 萌絵さん(土浦小)
- ⑩ 小堀
- ⑪ 樹英さん(都和小)
- ⑫ 的場
- ⑬ 紗英さん(都和小)
- ⑭ 山沢
- ⑮ 萌さん(中村小)
- ⑯ 堀
- ⑰ 駿さん(中村小)
- ⑱ 里帆さん(荒川沖小)
- ⑳ 引樹さん(荒川沖小)
- ㉑ 松原
- ㉒ 愛奈さん(真鍋小)
- ㉓ 八城
- ㉔ 宏太さん(真鍋小)
- ㉕ 中澤
- ㉖ 一輝さん(穴塚小)
- ㉗ 安達
- ㉘ 絢菜さん(穴塚小)
- ㉙ 佐野
- ㉚ 隆清さん(東小)
- ㉛ 田山
- ㉜ 真衣さん(東小)
- ㉝ 高松
- ㉞ 拓麻さん(下高津小)
- ㉟ 桐原
- ㊱ 絢香さん(下高津小)
- ㊲ 村山
- ㊳ 莉那さん(斗利出小)
- ㊴ 浅見
- ㊵ 拓海さん(斗利出小)
- ㊶ 川尻

- ㊷ 栗原
- ㊸ 麻純さん(藤沢小)
- ㊹ 瀬戸
- ㊺ 直樹さん(藤沢小)
- ㊻ 橋本
- ㊼ 晃平さん(石粉小)
- ㊽ 下村
- ㊾ 美雨さん(石粉小)
- ㊿ 谷川
- 1 歩惟さん(神立小)
- 2 石川
- 3 奈智さん(神立小)
- 4 藤井
- 5 華穂さん(菅谷小)
- 6 房安
- 7 良和さん(菅谷小)
- 8 安藤
- 9 紀宝さん(都和南小)
- 10 岡田
- 11 萌さん(都和南小)
- 12 松延
- 13 健斗さん(土浦第二小)
- 14 矢口
- 15 詩織さん(土浦第二小)
- 16 鴨崎
- 17 浩太さん(乙戸小)
- 18 横田
- 19 望玖さん(乙戸小)
- 20 磯原
- 21 晴行さん(上大津西小)
- 22 大久保
- 23 佳菜さん(上大津西小)
- 24 渡部
- 25 修平さん(上大津東小)
- 26 阿部
- 27 琴乃さん(上大津東小)
- 28 神林
- 29 萌さん(山ノ荘小)
- 30 和田
- 31 泰斗さん(山ノ荘小)